

気になる方はご相談ください

# 閉経すれば誰でもおこる萎縮性膣炎

今回はあまり知られていない婦人科の病気で、極めて多くの方がまんをしいられ、困っておられる萎縮性膣炎についてお話しします。



## どんな病気なの？

萎縮性膣炎は加齢のため、卵巣のホルモン産生機能がなくなり閉経を迎えた方、つまり卵巣から女性ホルモンが出なくなった方や両側の卵巣を摘出した方におこる病気です。

卵巣から出るエストロゲンというホルモンは膣の粘膜を厚く丈夫にしたり、膣内を強い酸性を保ち潤いをあたえ清浄な状態に保たせる役割があります。しかし、閉経によりエストロゲンが出なくなるとこの作用もなくなり、傷つきやすくなり、萎縮して雑菌が繁殖してきます。

## 症状は？

黄色や褐色の帯下が続く、臭いがきつくなる。ちよつとしたことで膣粘膜に傷ができて出血する。膣入口の乾燥感、かゆみ、違和感、痛みなどを訴える人もいます。

閉経後の方で黄色や褐色の帯下が続くの心配されたり、突然の真つ赤な性器出血を訴えて子宮癌になったのではないかと心配されて婦人科を受診される方の多くは萎縮性膣炎の方です。



膣壁の粘膜が炎症し

疼痛  
灼熱感  
乾燥感  
痒み  
違和感  
性交痛  
性交時出血  
等の症状が・・・

※ 全ての女性に治療が必要なわけではありません

## 治療方法は？

原因はエストロゲンというホルモンの欠乏ですので、飲み薬でエストロゲンの補充をすれば2週間程度で良くなつてきます。エストロゲンの補充をやめると1〜2ヶ月でまた元に戻つてしまいますので継続して服用することが必要です。

## 気になる方は 婦人科を受診しましょう

萎縮性膣炎は生命を脅かすような病気ではありませんので帯下などを我慢しておられる方が多いようですが、薬を服用することで症状は改善します。また、エストロゲンには骨が丈夫になることやコレステロールが下がること、皮膚がみずみずしくなるなど効果もあります。皆さまの中にはホルモン治療は怖いという先入観をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、当院では比較的安全なホルモン剤による治療を積極的に行つております。閉経後で黄色や褐色の帯下が続くとか、においが気になるという方はお気軽にご相談下さい。

## 美濃病院産婦人科の紹介

4月から木曜日の診察が追加になりました

### 【診察日】

受付はいずれも8時30分から  
水曜日・木曜日：午前9時～正午  
第1・第3金曜日：午前11時～午後2時

### 【担当医師】

水曜日・木曜日：伊藤邦彦  
金曜日：岐阜大学病院より派遣

### 【医師紹介】伊藤 邦彦

はじめまして。20年以上にわたり岐阜市民病院の産婦人科の診療を担当していましたが、定年になり本年4月から毎週水曜日と木曜日の美濃病院産婦人科外来を担当しています。当院産婦人科では今回お話ししました萎縮性膣炎の他にも子宮癌検診、月経異常、性器出血、更年期障害、子宮内膜症の保存療法、子宮筋腫や卵巣腫瘍の経過観察、避妊の相談、月経日の変更などの相談をさせていただきますので気軽に受診してください。

